

一般社団法人日本サンゴ礁学会
2025/26 年度 第 1 回理事会 議事録

【日 時】 2025 年 10 月 6 日（月）9:00～12:00

【場 所】 Zoom によるオンライン開催

【参加者】

会長		: 中野義勝
理事（6 名）	学会誌担当理事	: 波利井佐紀
	広報・社会連携担当理事	: 中村隆志
	学会戦略・国際連携担当理事	: 渡邊敦
	サンゴ礁保全・調査安全担当理事	: 菅浩伸
	庶務・会計担当理事	: 木村匡（欠席）
	大会担当理事	: 山下洋
監事（2 名）		: 宮本育昌、和田直久（欠席）
事務局長		: 水山克

【議 題】

●審議事項

（1）2024/25 年度事業報告書 > 水山

中野会長から、重点課題、重点課題の具体的取り組みについて説明があり、各理事から所掌委員会の事業報告が行われた。重点課題の具体的な取り組み（2）②「所掌理事の変更や新たな理事・委員会の立ち上げ」については、（1）「プラットフォーム機能の強化」⑤へ移動させ、大会担当理事の担当を外すことが承認された。学会戦略委員会は廃止する方向で検討される一方で、学会戦略担当理事は存続させ、プロジェクトに応じてアドホックな委員会を設置する構想が示された。

（2）2025/26 年度事業計画書 > 水山

（学会誌）学会誌の投稿論文数が一時的に増加した（大森保先生追悼セッション等）ことから例年より 80 万円増額した予算が必要となり、承認された。

（広報）学会 HP の改修については、見積を取得した上で必要に応じて予算の検討を行うことが承認された。

（教育普及啓発）予算については全体の予算との調整が必要であることが指摘されたが、計画については提案通り承認された。和の響き「三線制作プロジェクト」への連携について追記するよう指摘があった。

（国際連携）ICRS、台湾サンゴ礁学会への渡航費用を国際連携委員会に計上することが依頼された。また、過去に類似の支援を受けていない若手会員を優先して支援するよう依頼された。外国会員に関する規約の変更を検討することが承認された。

（保全学術）大会での NPO 等による保全活動ポスターの参加者、保全教育普及奨励賞の実施を追記することが指摘された。

（3）2025/26 年度予算案 > 水山

決算書による前年度の実績が確定していないため、決算書ができ次第、予算案の策定を検討することが報告された。

(4) 事務員人件費の改定（予算案） > 中野

最低賃金の改定が 12 月 1 日から施工されることを受け、事務局員の賃金について時給 1100 円（参考：沖縄県の時給 1055 円）とすることが提案され、承認された。

(5) 大会期間中の理事会・総会・委員会用の会場費用 > 山下

大会予算に含まれる委員会等の室料について、各委員会から「会議費」として計上すること、理事会については庶務会計から計上することが提案され、承認された。具体的な会場費は、実行委員会が会場を決定した後に算出し、各委員会へ通知することとなった。

(6) 理事及び監事候補者の推薦 > 中野

提案通り承認された。今後、ジェンダーバランスの検討が必要であることが指摘された。過去には留任する理事の決定を行った後で、代議員によるメール投票という順番で行われていた。

(7) 総会の議題 > 水山

提案通り承認された。「その他」として会員種別の変更に関する臨時総会を開催する可能性について言及することとなった。

(8) 団体会員の新規入会申込 > 水山

新規入会申込 9 月分の 4 件について、提案通り承認された。

(9) 外国会員の年会費・大会参加費について > 山下

大会に参加しない外国会員からの年会費徴収が困難であるため、大会参加時にのみ会費を徴収する方式への変更が提案された。また、近年増加している外国人学生に対応するため、外国会員の種別に「学生」を新設する必要性が提起された。本件については継続審議となった。

(10) 名誉会員の推薦 > 中野

提案通り承認された。

(11) 川口奨励賞受賞候補者の妥当性 > 木村（水山）

提案通り承認された。

(12) 第 30 回大会の開催地 > 中野

岡山大学—愛媛大学に打診し、前向きな返答があった。

(13) 委員会細則案について > 中野

継続審議となった。学会誌編集委員会規則についても、他の委員会規則と文言を統一する必要性が指摘された。任期については一括規定とせず、委員会ごとに柔軟性を残すため、各委員会の規則で個別に定める現行案が支持された。

(14) 委員会の活動年度について >中野

委員会の年度（任期の開始・終了時期）を年次大会終了後に合わせることを提案されたが、各委員会の活動状況を個別に検討する必要性が指摘され、継続審議となった。委員等の委嘱状については、可能な範囲で一括送付することが事務局負担を軽減し、委員の任期切れを防ぐことに繋がることが指摘された。

(15) 学会戦略委員会の廃止 >中野

過去2年間、あるいはそれ以前の4年間を含めて学会戦略委員会がほとんど機能していなかったことを踏まえ、委員会を廃止することが提案され、承認された。今後は戦略担当理事の役職は維持しつつ、戦略に関する議論は理事会が責任を持って行う体制を目指し、必要に応じて、特定の課題に対応するためのアドホックなワーキンググループを設置することが確認された。

(16) 若手の会の位置付けの検討 >中野

現在、組織内での位置づけが曖昧な「若手の会」について、委員会と同等の組織として正式に位置づけ、予算要求や活動報告の義務を伴う形にすることが提案された。委員会化すると、メンバーの追加・変更のたびに理事会の承認が必要となり、メンバーが頻繁に入れ替わる若手の会の流動性を損なう可能性が指摘された。代替案として、既存の委員会（例：教育普及啓発委員会）の下に「部会」や「ワーキンググループ」として設置する案が挙げられたが、部会のような形式で活動資金（保険、バイト代など）を支出する際の正当性をどう担保するかが課題として懸念された。

継続審議とする上で、若手の会にどのような権利と義務を課すのか整理する必要性が指摘され、メンバーの流動性を考慮しつつ、組織として責任ある支援と管理ができる体制（例：庶務担当理事の直下に置くなど）を検討していくことが確認された。

(17) その他

・団体会員制度の検討

学校や会社などの団体会員について、担当者が変わっても発表権利を継続できるような制度設計を検討すべきとの意見が出された。団体会員や外国会員といった会員種別に関する議論は、次期理事会に引き継いで継続審議とすることが承認された。

●依頼事項

(1) 編集委員会の部会名称と構成員の確認（冊子とHP） >中野

「和文誌編集委員会」、「英文誌編集委員会」という名称が定款細則上の「委員会」と誤解される可能性があるため、「部会」などへの名称変更を検討すること、また、冊子体の構成員リストとウェブサイトの委員リストの整合性を確認し、情報を統一することが依頼された。

- (2) その他
特になし

●報告事項

- (1) 第 28 回大会準備状況 >山下・波利井

参加者 250 名前後、支出約 70 万円となる見込みであることが報告された。大会実行委員会および大会担当理事、事務局、運営スタッフの参加費を無料にすることが提案され承認された。

- (2) 非会員への APC の導入について >波利井

学会誌は現在、フリーアクセスとして公開されているが、非会員でも無料で投稿できる状況である。冊子配布のない英文誌について、投稿数増加に伴う学会の財政逼迫の可能性や、会員サービスへの影響を踏まえ、学会誌編集委員会で APC（論文掲載料）の導入を検討していることが報告された。課金の方向性は良いものの、掲載料を高く設定すると投稿数が減少する恐れがあるため、国際的な競争力も考慮した価格設定のバランスが重要であることが指摘された。具体的な料金設定などの詳細は、学会誌編集委員会で検討の上、理事会へ再提案されることとなった。

- (3) 総会までのスケジュール確認 >水山

タイムスケジュールについて事務局から共有された。理事に関する部分のみハイライトして再度共有するよう指示があった。

- (4) その他
特になし

上記の決議を明確にするため、この議事録を作成し、代表理事及び出席監事の全員がこれに記名押印する。

令和 7 年 10 月 6 日

一般社団法人日本サンゴ礁学会理事会

代表理事 中野義勝 ⑩

監事 宮本育昌 ⑩

監事 和田直久 ⑩